

I 学校教育目標と特色ある経営方針

1 学校教育目標

「ふるさとに学び、仲間とともに、しなやかに未来をひらく子どもの育成」



【白根巨摩中学校区3校が9年間で目指す児童生徒像】

思いやり，創造力，すこやかな体を持ち，
未来を担う 白根こまっ子

◇相手の気持ちが思いやれる子ども【人間性の育成 心の成長】

○自分の気持ちや考えを相手に伝えられる子

- ・日々の生活に関心を持ち、目を向け、心を動かし、そのことを伝える子
(授業、作文、スリンプルプログラム)

- ・場に応じた正しい言葉遣いで思いをことばにできる子 (授業、スピーチ活動、グループ学習)

- ・明るくあいさつできる子 (全教育活動、登下校、地域での生活)

○相手の立場になって考えることができる子

- ・一人ひとりの違い、自他の違いを大切にする子 (全教育活動、授業・集会、スリンプルプログラム)
- ・誰もが同じ人間として大切にされ、尊重しようとする子 (全教育活動、道徳・学活)
- ・人の悲しみや苦しみ、喜びや楽しみを想像しようとする子 (授業、国語・読書活動)
- ・自分がされていやなことを、言ったり、したりしない子 (全教育活動)

◇対話し、学び、わかちあう子ども【主体的な学習者の育成 学習習慣の形成】

○学ぶ喜びを大切にする子

- ・よく本を読む子 (読書活動・朝読書・図書館活用)
- ・人の話に最後まで耳を傾ける子 (授業・集会)
- ・知ったこと、わかったことを生活に生かそうとする子 (作文・スピーチ・総合的な学習)
- ・校区を中心に、自然や文化、歴史、風土などを積極的に調べる子 (体験活動 市文化財課との連携)

○自分の考えを持てる子

- ・まちがえをおそれない子 (授業・集会)
- ・よりよく工夫して考える子 (授業・集会)
- ・ちがった意見や考え、感じ方を大切にする子 (全教育活動、授業・集会)
- ・相手の意見や考えから自分の考えを深める子 (授業・集会)

◇みんなと支え合い、ともに働く子ども【社会を生き抜く力 心身の健康習慣】

○進んで心身を鍛える子

- ・規則正しい生活習慣をおこなう子 (家庭との連携)
- ・つまずいても、あきらめずにまたやってみようとする子 (教育相談・作文)
- ・ねばり強く、すぐにあきらめない子 (無言清掃、当番・係活動)



- ・体を動かして遊び、運動が好きな子（体育・集会・休み時間）
- 力を合わせ働く子
- ・自分で考え、進んで働く子（無言清掃、当番・係活動）

2 基本方針

本年度は、チーム担任制（教科分担・専科指導の充実）及び DX（AI 活用）による授業改善・業務改善を重点的に推進し、全教職員で全児童を育てる体制づくりと、子どもに向き合う時間とゆとりの創出を図る。

その中で、子どもも教職員も、昨日の自分より一歩前へ進むことを喜び合い、「小さなチャレンジ」「1%の改善」「レジリエンス」が息づく学校づくりを進める。

（1）すべての子どもと教職員が、安心して力を発揮し、挑戦できる学校づくり。

- 子ども一人ひとりが大切にされ、自分らしく学び、生活できる、心理的安全性のある学級・学年・学校づくりを進める。
- 教職員相互が、立場や経験年数にかかわらず互いを尊重し、率直に意見を交わしながら支え合う、協働的な組織づくりを進める。
- チーム担任制の考え方のもと、教科分担や専科指導の充実を図り、学年・学校全体で児童を見取り、支える体制づくりを進める。
- 子どもも教職員も「小さなチャレンジ」を大切にし、挑戦を前向きに認め合い、勇気づけ合う学校文化の醸成に努める。

（2）一人ひとりの進歩と成長を認め励まし、主体的に学び続ける子どもの育成。

- 子どもの学習や生活の成果を、他者との比較ではなく、その子自身の伸びや変容として捉え、具体的に認め励ます。
- 目標の設定、振り返り、改善の過程を大切にし、「1%の改善」を積み重ねながら、自ら成長を実感できる指導に努める。
- 自分のよさや可能性に気づき、学ぶことへの意欲や自己有用感を高める教育活動を充実させる。

（3）対話と協働を通して学びを深める教育の充実。

- 子どもが自分の考えを持ち、根拠をもって表現し、対話を通して考えを広げたり深めたりできる授業づくりを進める。
- 友だちの考えに学び、考えを比べたりつないだりしながら、学びを深める学習活動を充実させる。
- チーム担任制のもと、教科担任制や担任交換等を効果的に進め、多面的な指導と支援によって、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。

（4）困難や失敗に向き合い、しなやかに立ち直る力を育む教育。

- つまずいても、あきらめずにまたやってみようとする態度を育てる。
- 困難な場面においても、自分なりの方法で気持ちを整えたり、周囲の支えを受けたりしながら、前に進もうとする力を育てる。

○個人のレジリエンスを育むとともに、支え合いながら困難を乗り越える集団のレジリエンスを高める。

(5)人・社会・自然との豊かな関わりを通して、実感を伴う学びを大切にする教育。

○子どもの生活経験や地域素材を生かし、体験と学びが結び付く教育活動を充実させる。

○郷土の自然、文化、歴史、人との出会いを大切にし、地域への愛着と誇りを育む。

○体験をもとに考え、根拠や理由をもって表現する学習を重視する。

(6)すべての教職員がすべての子どもに関わる、組織的な教育活動の充実。

○学級担任だけでなく、学校全体で子どもの姿を共有し、継続的に支える体制づくりを進める。

○個別の支援が必要な児童については、共通理解のもと、組織的かつきめ細かな支援を行う。

○保護者や関係機関との連携を大切にし、途切れのない支援につなげる。

(7)DX(AI 活用)を推進し、授業改善・業務改善を通して、子どもに向き合う時間とゆとりを生み出す学校運営。

○ICT 及び AI を活用し、教材研究、授業準備、文書作成、情報整理等の効率化を図る。

○創出した時間を、子どもの見取り、対話、授業改善等に充て、教育の質の向上につなげる。

○教職員一人ひとりが新たな手法やツールの活用に前向きに挑戦し、実践と改善を重ねながら、チャレンジする学校文化の醸成に努める。

(8)家庭・地域と連携し、信頼される学校づくり。

○学校の教育活動や子どもの成長を積極的に発信し、保護者・地域と共有する。

○地域の教育力を生かしながら、子どもと大人がともに学校をつくる意識を高める。

○意見や相談、要望等を丁寧に受け止め、信頼を基盤とした協力関係の構築に努める。